

工学研究科研究成果データベースの構築について

京都大学附属図書館

佐野 広明

ポスト「工学研究」

- 「工学研究」: 1997年～作成されている工学研究科の研究成果データベース
- 2002年で中断 再構築の必要性
- 工学研究科附属情報センターのプロジェクトのひとつ
- 初期データとして、引用文献データベース “Web of Science” のデータを利用

CSI事業との関係

- リポジトリと関連するシステム
- 各種調査 (外部評価報告書など) にも対応
- 情報センターへ附属図書館職員を派遣
- 構築費用としてCSI予算を利用

データベース構築の流れ

- 専攻長会議で作業アルバイト (各専攻所属の大学院生) 紹介の依頼
- 教員リスト作成 (協力講座も含めて約600名分)
- データ収集・修正 (アルバイトによる)
- 研究室でのチェック
- 完成したデータを”refbase” (文献管理ソフト)へインポート

アルバイト作業内容

- 研究室単位で著者名によりWeb of Scienceを検索 “Field Tagged”形式でダウンロード
- 研究室用チェックリストの作成・配布・回収
- チェック済みリストを元にデータ修正 約5,800件のデータが完成

“refbase”とは

- オープンソースのWeb ベース文献管理ソフト
<http://refbase.sourceforge.net>
- 外注により、今回のプロジェクトに必要な機能を追加

refbaseの改造

- インポート機能の強化
- 研究室コード対応
- 本文へのリンク追加 (DOIを利用)
- Web of Scienceへのリンク (引用回数
の表示)

refbaseの画面例

The screenshot displays the refbase interface with several key components:

- 検索画面 (Search Screen):** Located at the top, it includes the text "Your Literature Database" and a search bar.
- 研究室論文一覧 (Research Paper List):** A list of search results is shown, including entries from 2006 and 2005. One entry from 2005 is highlighted with a blue box.
- 電子ジャーナル (Electronic Journal):** A blue box points to a specific article entry in the list.
- Web of Science:** A blue box points to a link that leads to the article's record on the Web of Science database.

研究室への説明

- できるだけ研究室の負担にならない方法での調査
- 研究室のメリットを強調
各種論文一覧作成の省力化など
- チェック済みリスト回収率 約92%(188/204講座)

機関リポジトリとの連携

- 元になるタグ形式ファイルを加工し、DSpaceにインポート
- リポジトリでは、コンテンツ登録時における書誌データ入力の省力化に
- rebaseからは、電子ジャーナルまたはリポジトリへのリンクが可

今後の課題

- システムの改良 (データ追加機能など)
- 学外への公開に向けて検討
- リポジトリおよび他の研究者・研究成果データベースとどのように連携するか